

京都大学医学部附属病院
麻酔科専門研修プログラム　2027

京都大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

1．専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する.

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う.

2．専門研修プログラムの概要と特徴

責任基幹施設である京都大学医学部附属病院（京大病院）と２１の関連研修施設が研修プログラムを構成し、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する.

本研修プログラムでは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている.

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるよう，適切なローテーションを構築する.
- 京大病院は日本集中治療医学会の専門医研修認定施設でもある．京大病院における研修中は麻酔科医としての全身管理や術後疼痛管理の研修の一環として，集中治療部でのローテーションを実施する.
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが，専攻医のキャリアプランに合わせて，集中治療やペインクリニック等の研修を取り入れたローテーションも考慮する.
- 本プログラムは，基幹施設である京都大学医学部附属病院と２１の専門研修連携施設で構成される．基幹施設である京都大学医学部附属病院での研修をコアに，専門研修連携施設での研修を組み合わせることで地域医療において果たすべき麻酔科専門医の知識と経験を身につける．原則として1～2年間は基幹施設である京都大学医学部附属病院で研修を行い、2～3年間は専門研修連携施設での研修を実践する.
- 京大病院研修中は毎朝開催される術前カンファレンスのほかに週1回の文献抄読会，症例検討会に参加して麻酔科領域の専門知識の習得をはかる．症例検討会では，問題のあった症例，興味深い症例，学会報告する症例などを専攻医，指導医だけでなく麻酔科全員で検討する.
- 日本麻酔科学会の学術集会，支部学術集会の参加を必須とする．これらの学術集会で行われる共通講習の受講も必須とする．麻酔科学会の定める麻酔科領域の講習は，規程どおり必要単位以上を受講させる.
- 京大病院では本プログラムにおける研修における学習で参考にするべき麻酔科学，集中治療医学，疼痛医学の主要雑誌は全て電子ジャーナルとして院内から無料で閲覧可能であり，自己学習の環境は整えられている.

研修実施計画例

	A（標準コース）	B（ペイン重点）	C(集中治療重点)
初年度前期	京大病院（麻酔）	京大病院（麻酔）	京大病院（麻酔）
初年度後期	京大病院 （麻酔・集中治療）	京大病院 （麻酔・集中治療）	京大病院 （麻酔・集中治療）
２年度前期	京大病院（麻酔）	連携施設 （地域医療）	連携施設 （地域医療）
２年度後期	京大病院 （麻酔・集中治療）	連携施設 （地域医療）	連携施設 （地域医療）
３年度前期	連携施設 （地域医療）	連携施設（麻酔）	連携施設（麻酔）
３年度後期	連携施設 （地域医療）	連携施設（麻酔）	連携施設（麻酔）
４年度前期	連携施設（麻酔）	京大病院 （ペイン・麻酔）	京大病院 （麻酔・集中治療）
４年度後期	連携施設（麻酔）	京大病院 （ペイン・麻酔）	京大病院 （麻酔・集中治療）

週間予定表

京都大学医学部附属病院　麻酔中心研修の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	ICU	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	ICU	手術室	休み	手術室	休み	休み
当直			当直				

京都大学医学部附属病院　集中治療重点研修の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	ICU	ICU	ICU	手術室	ICU	休み	休み
午後	ICU	ICU	休み	手術室	ICU	休み	休み
当直		当直					

京都大学医学部附属病院　ペインクリニック重点研修の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	ﾍﾟｲﾝ外来	手術室	ﾍﾟｲﾝ外来	手術室	ﾍﾟｲﾝ外来	休み	休み
午後	ﾍﾟｲﾝ外来	手術室	休み	手術室	ﾍﾟｲﾝ外来	休み	休み
当直		当直					

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

京都大学医学部附属病院

研修実施責任者：江木　盛時

専門研修指導医：江木　盛時（麻酔，集中治療）
溝田　敏幸（麻酔，集中治療）
甲斐　慎一（麻酔，集中治療）
川本　修司（麻酔,集中治療,ペインクリニック,心臓血管麻酔）
瀬尾　英哉（麻酔，集中治療）
加藤　果林（麻酔，ペインクリニック）
木村　聡（麻酔，集中治療）
日笠　友起子（麻酔，集中治療）
宮尾　真理子（麻酔）
辰巳　健一郎（麻酔，集中治療，心臓血管麻酔）
松川　志乃（麻酔，集中治療，心臓血管麻酔）
橋本　一哉（麻酔，集中治療）
武田　親宗（麻酔，集中治療，心臓血管麻酔）
廣津　聡子（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
池浦　麻紀子（麻酔）
木村　良平（麻酔，集中治療）
山田　瑠美子（麻酔，心臓血管麻酔）
櫻井　洸太朗（麻酔）
三好　健太郎（麻酔）

専門医　　：田口　聡久（麻酔，集中治療）
楠戸　絵梨子（麻酔）
小堀　鮎美（麻酔）
南迫　一請（麻酔，集中治療）
生野　智美（麻酔）

髙橋　周平（麻酔，集中治療）
島田　覚生（麻酔，集中治療）

認定病院番号：　4

特徴：すべての外科系診療科がそろっており、豊富な症例を通じて幅広い麻酔管理を経験することが可能であり、日常的な手術から高度先進医療まで、バランスよく実践力を養える環境が整っています。肝移植、肺移植、人工心臓植込み手術、経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）、覚醒下開頭術といった、他施設では経験が難しい高度かつ専門性の高い手術の麻酔管理を経験豊富な指導医のもとで体系的に学ぶことで、様々な合併症を持った患者さんの麻酔管理における確かな臨床力と判断力を身につけることができます。

集中治療部やペインクリニックでの研修機会もあり、周術期管理から集中治療まで一貫して経験し、術後痛から慢性痛まで体系的に経験することで、幅広い麻酔科領域の知識と技術を習得できます。

また、専攻医に必須化された論文執筆や臨床研究についても、経験豊富な指導医から丁寧な指導を受けることができます。

②　専門研修連携施設

１．公益財団法人　田附興風会医学研究所　北野病院

研修プログラム統括責任者：加藤　茂久

専門研修指導医：加藤　茂久（麻酔）
足立　健彦（麻酔、集中治療、無痛分娩）
宮崎　嘉也（集中治療）
黒嵜　明子（小児麻酔）
原　朋子　（麻酔）
前川　俊　（心臓血管麻酔、集中治療）
柚木　圭子（麻酔）
直井　紀子（麻酔）
村田　裕　（麻酔）
至田　雄介（心臓血管麻酔、集中治療）

専門医：　成田　葉月（麻酔）
中辻　史織（麻酔）
松山　裕敬（麻酔）

認定病院番号　65

特徴：地域医療支援病院。大阪市北区で中心的な役割を果たす病院である。麻酔科管理で年間約４３００件の非常に多彩な手術を行っており、心臓血管外科、小児外科を含むほぼ全ての領域の手術麻酔を１４名の専門医の下で余裕を持って研

修することができる。２０２３年度に手術室が４室増えて計１５室となり、西日本トップクラスの床面積を誇るハイブリッド手術室、心臓外科専用手術室が稼働し、TAVI手術も始まった。また２０２３年度より無痛分娩も開始し徐々に適応を拡大しつつある。

また専攻医の学会発表や院外研修を科として積極的にサポートしており機会は豊富である。日本集中治療医学会専門医研修認定施設、心臓血管麻酔専門医認定施設でもあるので、十分な集中治療研修、心臓血管麻酔研修を行うことができる。

２．大阪赤十字病院

研修プログラム統括責任者：西　憲一郎

専門研修指導医：　西　憲一郎（麻酔、集中治療）
岡本　明久（麻酔、集中治療）
小松崎　宗（麻酔、集中治療）
関口　貴代（麻酔）
辻井　俊二（麻酔・集中治療）
楠　　淑　（麻酔）
山本　真理子（麻酔）

専門医：　上畑　悠子（麻酔）

認定病院番号：59

特徴：当院は大阪市内の地域医療で中核をしめる救急救命センターとして多彩な緊急症例を受け入れるとともに、ロボット支援下内視鏡手術などの高度医療にも対応している。年間約5,200件の麻酔科管理症例を通じ、新生児～小児、周産期医療、心臓大血管手術（EVAR・TAVI含む）、開胸、開頭症例などを研修することができ、緊急手術症例も多い。集中治療部においては術後管理も含め、院内・院外からの重症患者の受入も多く、トータルな全身管理ができる麻酔科医を目指す。またワークライフバランスにも留意し、休暇の積極的な取得を勧めている。

３．兵庫県立尼崎総合医療センター

研修実施責任者：田中　具治

専門研修指導医：田中　具治（麻酔、集中治療）
尾田　聖子（麻酔）
宮本　知苗（麻酔）
杉山　卓史（麻酔）
山長　修（麻酔、集中治療）
小川　達彦（麻酔、集中治療）
谷上　祥世（麻酔）

平山　優（麻酔）
山﨑　倫子（麻酔）
播本 尚嗣（麻酔）
専門医：　山部　竜馬（麻酔）
花井 香穂（麻酔）

認定病院番号：　698

特徴：平成 27 年７月に旧・兵庫県立尼崎病院が改名・新築移転し、阪神地域の総合的な基幹病院として高度急性期・高度専門・先進医療を行っている。救急救命センター・小児救急救命センターと総合周産期母子医療センターを有し、小児医療・周産期医療・救急医療が充実しており、小児の麻酔症例と帝王切開術の麻酔症例も豊富（令和７年度の麻酔症例数：6 歳未満の小児 458 例、帝王切開術 322 例）。臓器移植手術以外の様々な手術の麻酔管理が経験可能であり、特に先天性心疾患患者の心臓血管手術と胸部外科手術の麻酔症例が豊富であることも特徴である。

４．赤穂市民病院

研修実施責任者：長尾　靖之

専門研修指導医：横山　弥栄（麻酔、ペインクリニック）
長尾　靖之（麻酔）
吉松　茂（麻酔）
片山　英里（麻酔）

認定病院番号：　559

特徴： 気候の温暖な、災害の少ない立地の西播磨地方の中核病院です。360床の中小病院ですが 各科の垣根が低く、周術期にも連携してチーム医療ができています。2024年度から呼吸器外科の手術はしなくなりました。産婦人科常勤医不在のため帝王切開はありません。消化器外科と整形外科の手術が多い傾向です。麻酔科常勤医3名、育児中の週5日時短勤務1名、週3日勤務1名で、専門研修指導医は4名おり、手厚い指導の下に麻酔手技を数多く経験していただけます。またペインクリニック学会指定研修施設であり、希望があればペインクリニックの研修も可能です。

５．市立岸和田市民病院

研修実施責任者：谷本　圭司

専門研修指導医：谷本　圭司（麻酔、集中治療）
井上　麻意子（麻酔）
東　恵理子（麻酔）

黄　輝広（麻酔）

認定病院番号：　541

特徴：大阪府南部（泉州地域）の中核病院であり、この地域の急性期医療を担っています。麻酔科管理症例は年間約 2400 例あり、心臓血管外科を含むほぼ全科の手術麻酔を経験できます。外科系各科の垣根が低く、コメディカルとの関係も良好で、働きやすい環境です。

6．医仁会武田総合病院

研修実施責任者：瀬川　一

専門研修指導医：瀬川　一（麻酔、集中治療）
矢澤 智子（麻酔）
中村 久美（麻酔）

認定病院番号：648

特徴：地域に密着した急性期総合病院である．ほぼすべての外科系診療科を有しているため，各科の予定および緊急手術の麻酔及び集中治療室における患者管理を学ぶことが出来る．

7．京都市立病院

研修実施責任者：角山　正博

専門研修指導医：角山　正博（麻酔、ペインクリニック）
白神　豪太郎（麻酔、集中治療）
佐藤　雅美（麻酔）
大西　佳子（緩和ケア、ペインクリニック）
下新原　直子（集中治療）
野口　英梨子（麻酔）
石井　真紀（麻酔）
篠原　洋美（麻酔）
藤田　靖子（麻酔）

専門医：　深見　紀彦（麻酔）
南野　園子（麻酔）
青山　典子（麻酔）

認定病院番号：　127

特徴：主要な外科系診療科がそろっており、バランスよく多彩な症例の麻酔研修を行うことができる。集中治療、緩和ケアの研修も可能である。

8．株式会社麻生　飯塚病院

プログラム統括責任者：尾崎 実展
専門研修指導医：尾崎　実展（麻酔）
内藤　智孝（麻酔）
田平　暢恵（麻酔）
鵜島　雅子（麻酔）
濵井　優輔（麻酔）
満田　真吾（麻酔）
認定病院番号：　539
特徴：当院は救命救急センター、福岡県総合周産期母子医療センターに認定されており麻酔科は超未熟児を除くほとんどすべての緊急手術に対応している。
また地域がん診療連携拠点病院であり、幅広い悪性腫瘍の手術を行っているが肝胆膵手術、肺手術の症例数が特に豊富である。
心身合併症センターを運営しており、精神疾患で周術期管理困難と思われる近隣患者の受け入れも行っている。
開心術、TAVI、大動脈手術（開胸･開腹およびステント留置）、重症下肢虚血血行再建など心臓血管外科領域での幅広い手術を行っており、心臓血管麻酔専門医認定施設である。

９．滋賀県立総合病院
研修プログラム統括責任者：疋田　訓子
専門研修指導医：疋田　訓子（麻酔）
伊藤　有紀　(小児麻酔)
田辺　寛子（麻酔）
中尾　隆宏（麻酔）
安原　玄人（麻酔）
武井　由衣（麻酔）
認定病院番号：347
特徴：滋賀県における都道府県がん診療連携拠点病院であるため、外科系全ての診療科が揃う．昨年隣接する滋賀県立小児保健センターと合併し，小児から超高齢者まで幅広い症例や多岐にわたる手術を学ぶことができる．全身麻酔だけでなく脊髄くも膜下麻酔や硬膜外麻酔，神経ブロックなど様々な手技を学ぶとともに，集中治療部やペインクリニック，緩和ケアなどサブスペシャリティ部門も経験できる．

１０．地方独立行政法人　市立大津市民病院
地方独立行政法人 市立大津市民病院

研修プログラム統括責任者：橋口　光子
専門研修指導医：　橋口　光子（麻酔）
神原　恵（麻酔）
森　由美子（麻酔）
永井　裕子（麻酔）
片岡　麻子（麻酔）
中西　昌恵（麻酔）
饗場　千夏（麻酔）
認定病院番号：287
特徴：大津医療圏の中核施設．外科系各科が揃っており，緊急手術も多い．集中治療のローテート可能．地域医療支援病院・災害拠点病院．

１１．大津赤十字病院

研修実施責任者：宇賀　久敏
専門研修指導医：宇賀 久敏 (麻酔)
吉川 幸子 (麻酔)
石井 孝広 (麻酔)
岸本 佳矢 (麻酔)
専門医：　芳川 瑞紀 (麻酔)
藤井 庸祐 (麻酔、集中治療)
西出 和正 (麻酔)
認定病院番号: 305
特徴：高度救命救急センター、周産期母子センター、地域医療支援病院、地域がん医療支援病院を兼ねる。麻酔科管理症例のうち高度救命救急センター経由患者が5~6%を占める。NICUもあるため患者層は生後1日目から100歳超までと幅広い。外科、小児外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、形成外科、泌尿器科、歯科口腔外科、脳外科、産婦人科がある。外傷の緊急手術もある。通常の手術で硬膜外麻酔を含む神経ブロックを併用する率が高い。専門医の下で十分な余裕を持って研修を積むことができる。ペインクリニック専門医指定研修施設なので、神経破壊薬を用いる緩和神経ブロックも学べる。日本専門医機構認定集中治療科専門研修施設でもある。

１２．三菱京都病院

研修実施責任者：篠村　徹太郎
専門研修指導医：大東　豊彦（麻酔）
篠村　徹太郎（麻酔,集中治療,ペインクリニック,緩和医療）

池垣　緑　（麻酔）

認定病院番号：　572

特徴：当院の病床数は188ですが、この規模の割には年間約100～160件超の開心術（胸部大血管を含む）を麻酔管理しております。また循環器内科も活発で、TAVIやWatchmanなどの手術を行っており、麻酔科も協力しています。循環器疾患を有する症例の非心臓手術の管理も多いです。その他の特徴としては80件前後の帝王切開を管理しております。その他には消化器外科、歯科、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科、泌尿器科があります。ロボット手術もあります。ICUは8床あります。規模が小さいので、病院全体としては風通しは良好で、外科系各科の垣根は比較的低く、連携は円滑です。緩和ケア病棟がありますので、がん患者の難治性疼痛に対する神経ブロックも行います。

１３．独立行政法人　国立病院機構京都医療センター

研修プログラム統括責任者：東別府　直紀

専門研修指導医：東別府　直紀　(麻酔・集中治療)

杉本　亮大（麻酔）

宮井　善三（麻酔）

森　悠（麻酔）

水津　悠（麻酔・集中治療)

木村　詩織（麻酔・集中治療）

専門医：　鈴木　陽世（麻酔）

認定病院番号：1280

特徴：京都府南部の中核医療施設としてほぼすべての外科系各科が揃い、開心術、経カテーテル大動脈弁留置術など豊富な手術症例を誇る。また救命救急センターでは積極的に救急患者を受け入れており、緊急手術も多く救急・集中治療領域でも充実した研修が可能である。またオンデマンドの無痛分娩を行っており、夜間の無痛分娩などにも携わることができる。

１４．神戸市立医療センター中央市民病院

研修実施責任者：美馬　裕之

専門研修指導医：美馬　裕之（麻酔、集中治療）

山崎　和夫（麻酔、集中治療）

宮脇　郁子（麻酔）

下薗　崇宏（麻酔、集中治療）

柚木　一馬（麻酔、集中治療）

野住　雄策（麻酔、集中治療）

桂　欣宏（麻酔、集中治療）

認定病院番号：　217

特徴：神戸市民病院機構の基幹病院として高度・先進医療に取り組むとともに救急救命センターとして24時間体制で1から3次まで広範にわたる救急患者に対応している。そのため心大血管手術、臓器移植手術、緊急手術など様々な状況で多種多彩な麻酔管理を経験できる。また、集中治療部を麻酔科が主体となって管理しているため大手術後や敗血症性ショック等の重症患者管理を研修することができる。

１５．公立豊岡病院組合立豊岡病院

研修実施責任者：正田　丈裕

専門研修指導医：正田　丈裕（麻酔）
陰山　成（麻酔）
田井　綾乃（麻酔）
小野　春菜（麻酔）
田中　崇嗣（麻酔）

認定病院番号：　434

特徴：ドクターヘリで救急患者を搬送して24時間体制で受け入れ，但馬地域唯一の総合病院として、京都府北部から鳥取県の一部まで含めた医療圏をカバーしている。外科系各科も充実しており、乳幼児から超高齢者まで幅広い年齢層の患者の麻酔管理を経験できる。救命救急センターや周産期医療センターも併設しているため、緊急手術症例の麻酔を数多く経験できる。

１６．神戸市立医療センター西市民病院

研修実施責任者：榎　泰二郎

専門研修指導医：榎　泰二郎（麻酔）
岡崎　俊（麻酔）
若松　拓彦（麻酔）
星　歩美（麻酔）

認定病院番号：　893

特徴：神戸市民病院機構に属し、神戸市西部の地域中核病院として心臓大血管手術、脳外科手術以外の手術麻酔管理を研修することができる。また、神経ブロック症例を多く経験することができる。

１７．京都桂病院

研修実施責任者：小山　智弘

専門研修指導医：小山　智弘（麻酔、心臓血管麻酔）
上田　裕介（麻酔）
住谷　絵未里（麻酔）
臼井　理紗（麻酔）
専門医：　三宅　悠介（麻酔）
認定病院番号：　975
特徴：京都市西部から乙訓地域、京都中部に位置し、約70万人の医療圏を担う基幹病院である。外科系のほぼすべての診療科を備え、多様な手術麻酔を経験できる。日常診療を通じて、麻酔専門医に必要な知識と技術を体系的に習得可能である。消化器外科、泌尿器科、産婦人科、呼吸器外科ではロボット支援手術に対応している。心臓血管麻酔では、専門医およびJB-POT認定医による指導体制を整えている。

18.　日本バプテスト病院

研修実施責任者：鬼頭　幸一（麻酔）
専門研修指導医：鬼頭　幸一（麻酔）
藤田　和子（麻酔）
認定病院番号：　1627
特徴：当院の特徴は、周産期医療に重点を置いている点です。NICU　を完備し産婦人科、小児科、手術部（麻酔科）が連携し24時間体制で母体搬送に備えています。そのため緊急手術を含め年間70件前後の帝王切開術が行われています。手術室は3室で、1室には陰圧装置を設置しており、COVID-19の帝王切開を5例経験しております。200床以下の施設ですが地域医療に貢献しています。

19. 高松赤十字病院

研修実施責任者：古泉　真里
専門研修指導医：古泉　真里　(麻酔)
伊藤　辰哉　(集中治療、救急)
中村　明代　(麻酔)
菅原　友道　(麻酔)
黒田 ジュリオ健司　(麻酔)
認定病院番号：　175
特徴：当院は年間約 3400 件の麻酔科管理症例を扱っており、内容も開心術や緊急手術を含め多岐にわたっている。また、救急科専門医施設・集中治療医専門医施設であり、体外循環や血液浄化なども含めた重症患者の全身管理についても学ぶことができる。

20. 大阪府済生会野江病院

研修実施責任者：加藤　武志

専門研修指導医：加藤　武志（麻酔）
福田　和彦（麻酔）
原　りさ（麻酔）

認定病院番号：　732

特徴：地域医療支援病院.　中規模病院であるが，心臓血管外科，呼吸器外科，脳神経外科，産科と多岐にわたる症例が経験できる.

21. 学研都市病院

研修実施責任者：久野　太三

専門研修指導医：久野　太三（麻酔）

認定病院番号：2006

特徴：整形外科症例を中心とし、外科、泌尿器科の手術麻酔症例があり、神経ブロック症例が多い。麻酔管理では脊椎症例が多くを占めており、リハビリ病棟を併設しているため、術後急性期に加え、回復期までの臨床経験が可能である。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（前年度の９月ごろを予定）本研修プログラムに応募する．選考は面接で行う.

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，電話，e-mail，郵送のいずれかの方法で行う.

京都大学医学部附属病院　麻酔科 江木盛時　教授
〒606-8507　京都府京都市左京区聖護院川原町54
TEL 075-751-3433
E-mail　moriori@tg8.so-net.ne.jp

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

1）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
3）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
4）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1）臨床現場での学習，2）臨床現場を離れた学習，3）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する.

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術なども指導医の下で経験する。

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA３度の患者の周術期管理や ASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などの麻酔管理のさらなる習熟に努める.

専門研修３年目

通常の症例の定時手術、緊急手術を基本的に一人で安全に周術期管理を行うことができる．心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などの周術期管理を中心になって担当する．移植手術などの特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する.

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる.

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する. 研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される.
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修

指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

- 京大病院研修中は年 2 回専門研修プログラム統括責任者（麻酔科教授）と専攻医の間で面談を行い、研修状況、今後の希望その他について直接聞き取りを行うとともに、必要なら口頭で指導を行う．
- 京大病院研修中は年度ごとに中央手術部、集中治療部の看護師長、担当臨床工学技師、担当薬剤師からみた専攻医の評価（主にコメディカルからみたコミュニケーション能力、研修態度等）を文書で研修管理委員会に報告させ、次年次以降の専攻医との面談の際の指導の参考とする。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10.専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11.専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12.専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う.
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は１回までは研修期間に含まれる.
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は, 連続して 2 年迄休止を認めることとする. 休止期間は研修期間に含まれない. 研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす.
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は, それまでの研修期間は認められない.

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする.
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる.

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める.

13.地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての大津赤十字病院，大津市民病院，公立豊岡病院組合立豊岡病院、赤穂市民病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する.

14.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します．